

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100258		
法人名	医療法人小林医院		
事業所名	グループホームリラ		
所在地	北九州市門司区小森江3丁目3-26		
自己評価作成日	令和1年10月3日	評価結果確定日	令和2年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和1年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

その人がその人らしい生活を送ることができるよう、生活歴からの生活習慣を尊重し、できる限り本人本位の瀬克を支援していくことを心がけています。利用者様のご家族だけでなく、地域密着型施設として、近隣住民が気軽に来援しやすい場所や地域づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム リラ」は小規模多機能施設を併設し住宅街にある2ユニットの施設である。医療法人を母体にもち、週1回医師が訪問し医療連携も密にとられており、利用者の方の安心にもつながっている。地域の方との交流も積極的に行われており、地域交流スペースを利用し、昨年は毎月地域の方を招待し食事会を開催、今年度は定期的な施設イベントの手伝いやボランティアに来ていただいている。施設からは夏祭りや花火大会、神社の祭り等の地域行事の準備などのお手伝いに職員が参加している。職員は毎月行われる施設が依頼した講師による勉強会に参加しスキルアップに努め、利用者の方がその人らしく生活を送れるよう、又、自立支援に向け、日々の業務に取り組んでいる。併設された小規模多機能施設とは、施設行事以外でも日常的に職員、利用者同士の方の交流が行われ良好な関係が築かれている。今後も、地域福祉の中心となり、活躍が期待される施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 入居者様が、住み慣れた環境で、安心して過ごせるよう支援している。 内部研修時にも理念を意識した内容を取り入れている。 	<p>理念は玄関、フロア、トイレに掲示、常に職員の目に付くようにしている。毎月行われる勉強会では、理念を意識してテーマを決め、理念の共有に努め、利用者の方が安心、安全に生活できるよう支援し、日頃より職員同士で声掛けし合い、利用者の方の自立支援に向け、日々業務に取り組んでいる。</p>
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事の準備お手伝い等、地域の自治会との交流を実施している。 地域の方がボランティアとして利用者様との交流の機会を確保している。 職員、利用者が地域の行事に参加している。 	<p>自治会に加入している。地域の夏祭りや花火大会等の準備等積極的に参加している。施設行事には、準備などの手伝いに地域の方の協力があり、又、地域の方による販売ブース(花屋、ネイルアート等)を設け、利用者だけでなく、地域の方とも一緒に行事を楽しめるようになっている。月2回程、傾聴ボランティアの方にも来ていただいおり、活発に地域交流が行われている。</p>
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 小学校校区の老人会に職員が所属し、情報発信を行っている。 	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 入居者様の毎月の活動内容、事故報告などを通じて、行政、地域、ご家族の方から、意見、アドバイスを頂戴している。 	<p>2ヶ月に1回、小規模多機能施設と一緒に運営推進会議を開催している。自治会長、地域包括職員等の出席あり、議事録の改善などの意見を頂くなど、毎回意見交換が活発に行われている。家族の方の参加もあるが、よりたくさんの家族の方の参加を促すため、去年は毎月会議を開催し、開催日時も夕方や土日等工夫を行っていた。今年度は平日昼と固定して開催している。</p>
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 北九州市の介護保険課の担当職員や、地域包括支援センターの担当職員と運営推進会議をはじめ、日頃より相談を行っている 	<p>運営推進会議の案内は出しており、介護保険の申請等は役所窓口に出向いている。日常の細かい相談事は、地域包括に行っており、その都度、適切な回答を得られている。事故報告や不明な点等は、その都度、電話で相談、報告し、行政との協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 入居者様に尊厳のある生活を送ってもらえるよう施設運営を行っている。 3か月に1度身体拘束等に関する委員会を開催し、介護職員、管理者、ケアマネそれぞれの立場から、適切なケアを実践できるよう協議している。 適宜、内部研修を開催している。 	<p>玄関は施錠しているが、グループホーム、小規模多機能施設の入出口は施錠されておらず、利用者の方は自由に行き来ができるようになっている。以前、離設あったが、職員見守り等の対応により、それ以降はない。スピーチロックに関する内部研修を行ったり、外部研修に参加し、職員全員で情報の共有を図り、理解を深め、知識向上に努めている。</p>

2019.10自己・外部評価表(GHリラ)11.21

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 施設内へのカメラ設置、録画 管理者による職員への指導の実施 年間勉強会の開催 		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、成年後見制度のご案内を実施しており、現在1名活用されている。 	現在は成年後見制度の利用している方はいない。外部研修に参加し、制度理解や知識向上に努め、職員はいつでも情報が得られるように、研修資料が閲覧できるように準備されている。	外部研修への参加はあるが、内部研修等の開催がないため、外部研修での資料等を活用し内部での勉強会を開いてみてはどうだろうか。又、利用者の家族の方などに対し制度の説明ができるよう、パンフレット等を常備されてはどうだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> 契約時や更新時に説明を行い、不安点を解消するように努めている。 		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 運営指針会議や施設行事等を活用し、ご家族来援時の要望の聞き取りを行っている。 ご意見箱の設置 	利用料の支払いを施設で行ってもらっているため、少ない方でも月1回家族の方の訪問がある。家族の方からは、訪問時に利用者の方の日頃の状況を報告、その際に意見、要望等がないか聞き取るようにしている。お聞きした要望等は、職員間で共有し要望に応えられるよう努めている。意見箱は設置しているが、これまでに利用されたことはない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 全職員を対象とした、管理者による定期的な面談を実施。 必要に応じた面談、会議の実施。 	定期的ミーティングがあり、職員は意見交換できる場が設けられている。日頃より、管理者や主任等に、その都度相談できる環境にあり、又、意見や要望、情報は申し送りノート等により職員間で共有され、業務にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 職員の個性、特製の応じたチーム編成、担当業務の振り分けを行っている。 		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	<ul style="list-style-type: none"> 職員募集の際、性別、年齢、生活状況による採用、不採用を行っていない。 	男女比は半々で、20～70代の方が勤務されている。職員同士のコミュニケーションも良好で、業務もスムーズに行われている。事業所から、研修案内や資格取得の促しあり、自己研鑽の機会が設けられている。休憩場所や時間も確保されている。職員はこれまでの経験や得意な事を活かし、業務に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	言葉遣い、接遇等、日々の業務の中で確認、指導している。	外部研修として、他研修の1コマとして受講している。研修資料は職員がいつでも閲覧できるように準備している。利用者への声掛けや対応等は、日々の業務の中で職員同士がお互いに声掛けし合い、常に人権を意識し業務に取り組んでいる。	外部研修に参加されているが、一部の人のみに限られているため、講師派遣による研修や地域包括や社協より人権関連の学習資料(DVD等)を借り受け、利用者と一緒に内部での人権学習の機会を設けることを検討してみてもどうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修について、研修案内が閲覧できる掲示板を設置し、研修希望者を募っている。 ・職員一人一人がスキルアップ・疑問点の解消ができるよう内部研修を毎週行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・外部研修や懇親会に参加し、同業者と交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前のアセスメントの中で本人、家族と面会し、相談や要望をお聞きし、信頼関係を築くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居相談時にお互いの疑問点、不安点を解消すべく、担当者を中心に信頼関係を構築している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居相談時にグループホーム入所だけでなく、併設している小希望多機能型施設や外部サービスの提案を含めご家族、本人様の希望の沿った利用をご案内している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活の中で、利用者様のできることは積極的にかかわりを持ってもらい、共同生活の構築に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・定期的な外泊、外出の機会を確保している ・外泊、外出時のサポートを行っている。 ・家族に随時適切に利用者様の状況を伝え、情報の共有に努めている。 ・運営推進会議等で気兼ねなく話せる関係づくりに努めている。		

2019.10自己・外部評価表(GHリラ)11.21

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・施設内レクだけでなく、思い出の場所への外出レク、一時帰宅等を行っている。	家族の方の訪問も定期的であり、毎週自宅へ外泊される利用者もおられる。日頃より、友人、知人、近所の方も訪問され交流されている。家族との小旅行の支援や釣り等の趣味活動には個別に対応し、馴染みのある方や場所との関係が継続されるよう支援されている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様の配席の考慮、役割分担を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所時の相談、お見舞いを含め、必要に応じて連絡、連携、アドバイス、援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者様の配席の考慮、役割分担を行っている。実現可能な要望や以前の生活リズムを尊重し、過ごしやすい生活が送れるよう県t悩んでいる。	入居時に利用者、家族等の関係者に聞き取り、アセスメント(包括的自立支援プログラム)を行っている。半年～更新時、状態変化時に見直しを行っている。意思疎通や伝達が難しい方に対しては、日々の表情や仕草等を観察し、家族訪問時に話を聞いて意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人様やご家族様とお話しの際、情報収集をこまめに行い、新たに知りえた生活歴や情報を全職員と共有し、支援に生かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・モニタリングやアセスメントによる状態把握を行い、現場には日々の申し送りや介護記録、朝礼ノートによる記録により、現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当者会議や面会時におけるコミュニケーションを行い、入居者やご家族の意見や要望をお聞きするようしている。また、本人の状態観察や現場スタッフへ現状を確認し、対応方法を考えながら、介護計画を作成している。4	ケアプランはケアマネジャー、計画作成担当者が、利用者や家族、職員等に聞き取りを行い作成している。見直しは、担当者会議を開催し、半年ごとに行っている。実施記録は支援経過に記入されており、職員はその都度確認し、情報の共有を行っている。	医師からの意見は口頭で聞き取りされ、支援経過には記録されているが、担当者会議議事録には反映されていないため、担当者会議などには照会をかけ、書類での意見を頂き、議事録への記録もされてはどうだろうか。

2019.10自己・外部評価表(GHリラ)11.21

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録に生活状況を記入してもらっている。 ・直接現場に足を運び、実践状況などを確認している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人の状態、状況やご家族の要望に応じながら、福祉用具の購入、レンタルやボランティアの受け入れ募集など、施設以外のサービス検討、導入している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域周辺のお店、自治会行事、娯楽施設などに、利用者様と一緒に赴き、地域貢献や気分転換を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居者の状態、ご家族のご希望に応じて、かかりつけ医、緊急時の受診施設を調整している。	母体法人が提携医であるが、入居前からのかかりつけ医の継続も希望できる。提携医の訪問は毎週あり、異変時等はすぐに相談等できる体制になっている。他科受診は職員が送迎支援を行っており、受診報告等は口頭で行い、聞き取った内容は連絡ノートに記入し、職員間で情報の共有を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・かかりつけ医と綿密な連携を図り、健康状態の維持、向上を図っている。 ・利用者の状態を看護師に伝え、研修等にもりこむようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・受診前の連絡相談を実施している。 ・入院時にサマリーを提供している。 ・病院主催の会議に参加して関係づくりの構築に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・体調、状態を観察し、主治医と相談のもと家族への報告、今後の対応について相談したのち、朝礼やミーティングにて共有をはかる。	マニュアルの作成はできていないが、これまでに看取りは2名程行っている。重度化の際に、医師からの説明あり、同意書を作成している。病院開催の研修案内(他テーマ)が来るため参加しているが、看取りに関することは研修の1コマとしての受講しかなく、内部での勉強会も行っていない。	看取りを経験した職員の話や外部研修等の資料を活用し、職員全員が看取りに関し、理解や知識を深められるよう、内部での勉強会を実施できるように検討してみてもどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを作成し、周知している。 ・救命講習を実施している。 ・外部研修受講を促す。 		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回防災マニュアルに基づいた防災訓練、避難訓練の実施。 	年2回、春(夜間想定)秋(日中想定)に防災訓練を行い、内1回は消防署立ち会いで行っている。備蓄品等の整備はないが、近くに市民センター、小学校があり、非常時には避難や物資の支援等受けられるように口頭ではあるが協力依頼ができています。	以前は地域の方へ呼びかけ、訓練参加もあったが、現在は行われてはいないため、今後、地域への貢献や備蓄品などの整備の検討を考えているとのこと、実施されることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が常に心掛けるようにし、よそよそしくない程度に、節度ある対応をしている。できていない場合はその都度管理者を中心に指導している。 	入職時のオリエンテーション時に接遇やマナーに関しての話を管理者より行っている。日々業務に取り組む中で、その都度指導を行い、利用者の尊厳を大事に対応している。個人情報の取り扱いや写真利用に関しての説明、同意は得ており、同意書の作成も行っている。	接遇やマナーに関する外部研修の受講を検討しているとのこと、定期的実施されることが期待される。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の流れよりも、できる範囲で本人の要望、希望を聞きながらケアを実践している。 		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個別にそった、生活リズムを尊重している。(就寝、食事、起床時間等) 		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の訪問理美容の実施。 ・本人様の希望に沿いながら、ヘアカラーやカットの実施。 ・ネイルアート、マニキュア等をレクにて行う。 		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳、下膳、盛り付けを利用者様と職員と一緒にしている。 ・外食レクの実施。 	調理担当の職員がおり、献立は管理者と相談し、作成している。食材は業者配達や利用者と一緒に買物に行くこともある。利用者には、おやつ作りや餃子を包む、野菜の水切り、コップを洗う等できることを手伝って頂いている。寿司が食べたい等要望は、個別に対応し、食事が楽しくできるよう支援を行っている。	

2019.10自己・外部評価表(GHリラ)11.21

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・本人の状態に応じた食事の携帯を考慮し、食事量や水分量の把握を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアの実施や、見守り、必要に応じた介助を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・できるだけおむつをしないよう支援している。 ・リハビリパンツ、おむつ使用の方については誘導時間等を考慮しながら、トイレでの排泄を促している。 ・自尊心を傷つけない様、尿とりパット等の使用を促す。	各ユニットに、個別に排泄チェック表あり、職員はそれぞれの利用者の排泄のパターンを把握し、声掛けや誘導を行っており、その都度、提案や話し合いを行い、改善に向け支援されている。排泄が自立されている利用者もおられ、周りに配慮しながら本人に排泄状況を確認している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘時の緩下剤についての知識向上を目的とした勉強会の実施。 ・水分量の把握、主治医との相談による排便コントロールの実施。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・職員配置の中で、できる範囲でご希望を聞きながら、できるだけ本人様の希望に添えるよう実施している。 ・日中だけでなく、夜間も入浴できるような体制をつくる。	浴室は毎日入浴できるように準備され、利用者の方は週に2～3回入浴される。入浴時間や回数は希望や状況に柔軟に対応し、夜間入浴も可能となっている。入浴剤やシャンプーも希望の物が使用できる。入浴はコミュニケーションの場となっており、その都度、皮膚や身体観察等状況を確認し、必要時には看護師や管理者に報告、医師へ相談している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活リズムに合わせて、安心して急速できるよう職員全員で気を使っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋の内容、留意点について理解し、対応を徹底している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の希望等を考慮しながら、入居者様に応じた家事分担を実施している。 ・買い物、行楽等の外出、おやつ作り等ご希望に応じて参加していただけるよう努力している。		

2019.10自己・外部評価表(GHリラ)11.21

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の趣味や要望などをお聞きし、実現に至ることができるよう、ご家族・職員と話しあい実際に外出できるような支援体制を行っている。	日頃より、近所の店に行ったり、釣りや外食等の外出を利用者の希望により個別に対応している。家族との外出の際も、出先での車椅子利用が可能かの確認や車椅子等の貸し出しの支援も行っている。利用者全員では、花見や初詣等の外出行事も計画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理が難しい方がほとんどで、外出時の買い物の直前にお渡しするようにしている。数名は小分けしたお財布を管理してもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望のある利用者様には携帯電話を持ってもらい、家族に電話できるようにしている。 ・手紙等をもらった時は、返事を書けるような支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・日々の清掃を心がけ、清潔な環境を保てるように努めている。 ・気温や天候に合わせて、換気や室温調整、採光を行い、快適に過ごせるよう努めている ・音楽を流すことにより、リラックスできるよう心掛けている。	清潔な環境で、居心地よく過ごしてもらい、笑いのある空間にしたいと職員全員が心掛けており、事業所内は掃除が行き届き、清潔に保たれ、室温等にも配慮されている。各ユニットリビングには高低差があるテーブルがあり、利用者の方の身体状況に合わせ利用できるようになっており、ゆっくり、快適に過ごせるように工夫されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ご自分の席だけでなく、ソファを設置し、自由に利用できるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・在宅時から使っている家具や食器をお持ちいただき、安心できる環境づくりに努めている。	居室内には、ベッド、エアコン、棚が備え付けられている。持ち込みに規制はなく、使い慣れた家具、テレビやラジオ、鉢植え、冷蔵庫等持ち込まれ、冷蔵庫の中には缶ビール等が常備されている利用者もおられ、利用者の方がその人らしく、穏やかに、落ち着いて、過ごせるように工夫がされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり			

2019.10自己・外部評価表(GHリラ)11.21

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人様の除隊やADLに合わせ、居室や利用空間への距離を考慮している。また、手すりやそのほかの福祉用具を活用し、できる限りご自身の力を使って生活していただけるよう工夫している。 ・アセスメント等により何ができるかをしっかり把握し、家事活動などをできるだけ行っていただけるようにしている。 		